

中野 寛之議員



一問一答方式

- ① 肱川の危険箇所マップ作成
- ② 出生届のワンストップ化
- ③ 地域の防災力向上
- ④ 東大洲こども園

肱川の危険箇所マップ作成について

問 河川管理者や民間の方々と協力するなど、川の怖さや具体的な危険箇所を児童・生徒及び親世代にも周知する取組ができないか。

答 市内の小学校では、各学校で校区内の河川や海、ため池などの危険箇所マップを作成、配布し、児童及び保護者に対し啓発を図っています。また、毎年年度初めや長期休業前に、警察、大洲市青少年センター及び市内小・中学校、高等学校

が作成した「生活のきまり」と題した文書を小・中・高校生及び保護者に対して配布し、城山下の可動堰など危険な場所での遊びや、指定地域外、指定時間外での水泳の禁止や、川や池、海へ一人で遊びに行かないなどといった注意喚起を図っています。さらに、小学校では子供だけで遊びに行かないよう指導しています。

肱川での水難事故防止に向けて啓発をより強化したいと考えており、過去の事例などを踏まえ、肱川での遊泳が危険な箇所を子供から大人まで周知できるマップなどの作成に向け、今後、河川管理者である国土交通省大洲河川国道事務所、愛媛県大洲土木事務所、警察署及び消防署、また川の流れなどの状況に詳しい市民の方など、関係機関、関係者の協力をいただき、作成に向けて検討したいと考えています。

出生届のワンストップ化について

問 出生届を出産直後の母親が提出するのは大変だと思いが、なるべく移動させないよう対応する改善はできないか。

答 本市では年間230名の新生児が誕生していますが、出生の届け時には、関連して必要となる手続の一覧表をお渡しするとともに、申請者に応じて必要な窓口をお知らせするなど、産後の母親だけでなく、あらゆる市民の方に寄り添った対応を心がけています。

出生届後の手続のワンストップサービスの提供は、申請者の負担軽減や滞在時間の短縮、手続漏れの防止の観点からも、今後取り組んでいく必要があると認識しています。ワンストップ窓口開設のために必要な人員の確保、システム改修など課題もありますので、先進事例の取組状況を参考に、デジタルトランスフォーメーション推進と併せて検討を進めていきます。

東大洲こども園について

問 東大洲こども園には送迎用の駐車場がなく、送迎時には交通量の多いこぶし通りを横断する必要がある、雨天時や複数の子供の送迎時には、ヒヤリとする場面を目撃しているが、現状の改善はできないか。

答 園の近くに本市が所有する土地がないことから、駐車場の確保には大変苦慮しており、現在は近隣施設の所有者のご厚意により、送迎用駐車場として使用させていただいています。

東大洲こども園を改築する時には、菅田こども園、大洲こども園のように送迎用駐車場を確保することとしていますが、それまでの間は、引き続き近隣の施設所有者や地元住民の理解を得ながら、駐車場の確保に努めたいと考えています。



こぶし通り